

# にいがた 畜産協会たより

公益社団法人  
新潟県畜産協会

新潟市西区山田字堤付2310-15  
全農にいがた第2ビル内  
TEL. 025-234-6781  
~6783



## 特集 にいがた和牛の生産拡大に欠かせない 和牛繁殖基盤の強化に向けて



新規就農者の繁殖牛舎(建設中)



ET黒毛子牛とホルズ母牛



コストを抑えたパイプハウス牛舎



共同繁殖牛舎(佐渡市相川地区)

三条市下田地区(電牧を利用した牛舎裏山の運動場)

### 目次

- ◆年頭のご挨拶 会長 今井 長司 …… (2)
- ◆特集 和牛繁殖基盤の強化に向けて
  - 本県の和牛繁殖基盤の現状と強化に向けて…… (3)
  - JA佐渡における畜産クラスター事業の取組みと地域の期待
    - JA佐渡畜産振興課長 大瀧 知之… (4)
  - 「秋」和牛の頂点へ いざ宮城で決戦!!
    - 宮城全共に向けた本県関係者の挑戦
    - 全農新潟県本部畜産部 参与 加藤 博幸… (5)
  - 和牛の事故防止 ~冬場の疾病対策~
    - 下越家畜保健衛生所 主任 小野里 洋行… (6)
- ◆声のコーナー…… (7)
  - 「一貫経営を目指して」
  - 肉用牛経営：上越市頸城区 萬羽 沙織
  - 「震災からの復興、そして今」
  - 肉用牛経営：長岡市東川口 阿部 吉克
- ◆畜産安心ブランド生産農場だより…… (8)
  - 上越市頸城区：荻谷畜産(株) 社員 近藤 大貴
- ◆お知らせ
  - 畜産クラスター機械導入事例紹介…… (8)
  - セミナー等のご案内…… (8)
- ◆編集後記…… (8)



## 年頭のご挨拶



公益社団法人新潟県畜産協会

会長 今井長司

明けましておめでとうございます。

旧年中は、皆様方から当協会の業務推進について格別のご理解とご協力を賜り、心から感謝申し上げます。

昨年を振り返りますと、台風や豪雨、地震などの自然災害が国内のあちらこちらに大きな爪痕を残しました。被災された地域の日も早い復旧、復興をお祈りする次第であります。

幸い本県は豪雨などによる大きな被害もなく無事一年を終え、新しい年を迎えるものと思っておりましたが、11月末に県内では初めてとなる高病原性鳥インフルエンザが確認され、2農場の採卵鶏55万羽が処分、埋却されました。県や関係自治体などによる迅速な防疫対応により周辺農場も含め県内でのその後の発生は認められておりませんので、2農場の早期の経営再開を期待するものであります。

さて、畜産経営を取り巻く状況として、枝肉などの畜産物価格は、一昨年同様に堅調な価格での取引が継続し、牛マルキン（肉用牛肥育経営安定特別対策）など、いわゆる価格差補てんの発動も極めて少なく経過した年でありました。

また、当協会では実施している経営改善指導の成績を見ましても負債の償還困難等を理由とした経営の断念や廃業は発生していない状況にあり経営環境としては穏やかな一年でありました。

一方で、畜産経営の将来に不透明感を漂わせているTPP（環太平洋経済連携協定）については大きな動きがありました。我が国においては、昨年秋の国会においてTPP承認案や関連法案が可決されましたが、参加12か国域内において最大の国内総生産（GDP）を占めるアメリカ合衆国の新大統領（2017年1月20日就任）は、昨年秋の大統領選挙においてTPPからの離脱を表明し、その後も脱退する意思を明言していることから、TPPの早期発効は困難との見方が強まっています。

TPP発効の如何にかかわらず、県産畜産物が輸入や県外産の畜産物との競争に打ち勝ち、県民の皆様の一層の支持を得るためには、安全・安心の更なる確保が求められます。

本県の畜産経営は、この数年来、経営者の世代交代が進みつつあり、若い経営者が増えていますし、「協会たより」などで度々紹介させていただいている6次産業化などでは、女性が活躍する畜産経営も見られます。

このような経営者の方々と共に、県民の皆様が安心して食べられる安全な畜産物の供給を担う当協会の役割を引き続き果たしてまいり所存であります。

最後になりますが、皆様にとって希望に満ちた明るい年となりますことをご祈念申し上げます。新年のご挨拶とさせていただきます。

# 特集

## にいがた和牛の生産拡大に欠かせない和牛繁殖基盤の強化に向けて

黒毛和種を中心に肉用子牛価格の高騰が続いており、農水省の発表（子牛補給金制度関係）によると5年前の平成23年度第2四半期には382千円/頭であったものが、今年度第2四半期には812千円/頭と、この間で2倍以上の上昇となり記録的な高値となっています。

子牛価格高騰の主な要因は、子牛出荷頭数の減少があげられますが、他に枝肉価格の堅調な推移や配合飼料価格の下落も重なり、肥育牛経営体の旺盛な子牛導入意欲があるものと推測されます。

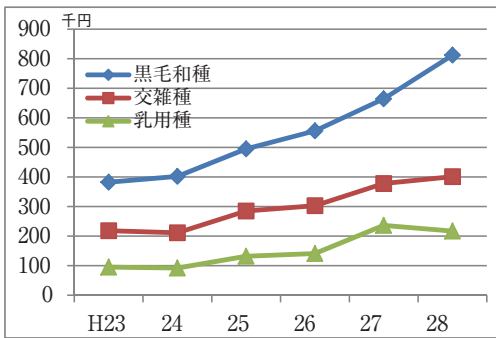
このような状況下において、国及び各県は、高齢化や担い手不足により弱体化した生産基盤を強化するため、雌牛増頭及び生産性向上に係る施策を措置し事業展開を図っております。

この結果、平成28年2月1日調査で全国及び新潟県とも肉専用種の繁殖雌牛の飼養頭数は前年を上回ることであります。この傾向を持続・加速させるため、国等の補助事業に加え「にいがた和牛」の生産拡大を目指して、来年度も新潟県の支援継続を期待する生産者の声は多数あります。

本号では、繁殖経営を取り巻く状況や繁殖基盤強化の対策、畜産クラスター事業を活用した大規模牛舎建設、さらには5年に一度開催される「全国和牛能力共進会」の宮城県開催に向けた本県の取組み状況等を紹介いたします。

また、生まれた子牛を元気で資質良好に育てるための『冬場の疾病対策』について、専門家からのアドバイスを載せました。衛生対策に気配りし良質な子牛生産に努めましょう。

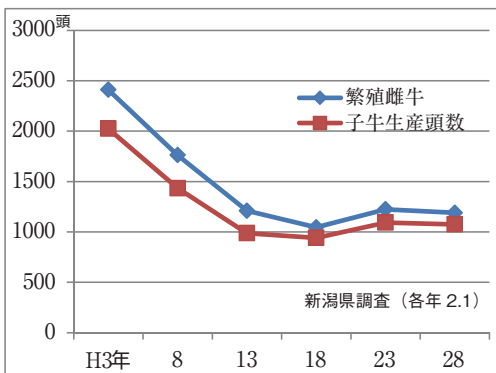
### ○肉用子牛取引価格の推移



全国の黒毛子牛取引頭数

年度別	H23	H24	H25	H26	H27
頭数(千頭)	360	362	351	334	323

### ○新潟県内の繁殖雌牛頭数(24カ月齢以上)



### 参考) 全国の繁殖雌牛飼養戸数・頭数の推移

区分/年	H18	H23	H27	H28
戸数(千戸)	73.4	59.1	47.2	44.3
頭数(千頭)	622	668	580	588

農林水産省調査

### 肉専用種繁殖雌牛の増頭をお考えの方へ

#### 肉用牛経営安定対策補完事業（機構補助事業）

肉用牛生産基盤を強化するため、繁殖経営への新規参入や繁殖雌牛の増頭、それに関わる施設整備等を支援する事業で、今年度の申請は終了しましたが、平成29年度においても実施が見込まれます。

#### ○中核的担い手育成増頭推進

地域の中核的担い手が計画的に優良繁殖雌牛を増頭した場合に増頭実績に応じた奨励金を交付

#### ○優良繁殖雌牛導入事業

地域の改良に必要な優良繁殖雌牛を導入計画に基づき購入し、一定期間自らが飼養する、または農業者等に一定期間貸付ける場合に奨励金を交付

#### ○繁殖雌牛の増頭に資する簡易牛舎等の整備

県の酪農肉牛近代化計画に基づく繁殖牛の増頭等に資する簡易牛舎の整備、施設の改造に必要な資材の支給及び器具機材の導入に補助

#### にいがた和牛生産基盤強化対策事業（県補助事業）

にいがた和牛の生産基盤の強化を図るため、肥育牛の増頭と肥育素牛の生産拡大の取り組みを支援、平成28年度単年度事業

#### ○にいがた和牛肥育素牛生産拡大事業

にいがた和牛の肥育素牛の生産拡大を図るため、繁殖雌牛導入を支援

#### 問合せ先

- ・「肉用牛経営安定対策補完事業」  
公益社団法人新潟県畜産協会 業務課
- ・「にいがた和牛生産基盤強化対策事業」  
新潟県農林水産部畜産課 生産振興係

# J A佐渡における畜産クラスター事業の取組みと地域の期待

J A佐渡 営農事業部畜産振興課長 大瀧 知之

## 《佐渡における繁殖経営の現状と課題》

佐渡は古くから高千家畜市場が開催され、肉質が良いと購買者から好評を得ています。畜産振興策として県外より繁殖素牛の導入や畜舎建設費用の補助を実施してきました。しかし農家の高齢化や後継者不足から飼育戸数、飼養頭数の減少に歯止めが掛からず、10年前の110戸、620頭から68戸、445頭となっています。

年3回開催する家畜市場も年間上場頭数は300頭を下回る状況となっています。

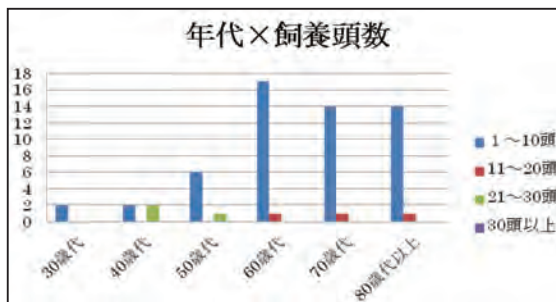
・佐渡市における飼養戸数、頭数等 (単位:戸、頭)

年次	繁殖和牛飼育戸数	繁殖和牛飼育頭数	市場取引子牛頭数
H24年	81	386	303
25年	79	347	287
26年	76	329	295
27年	66	306	291

\*繁殖和牛頭数：24ヶ月齢以上

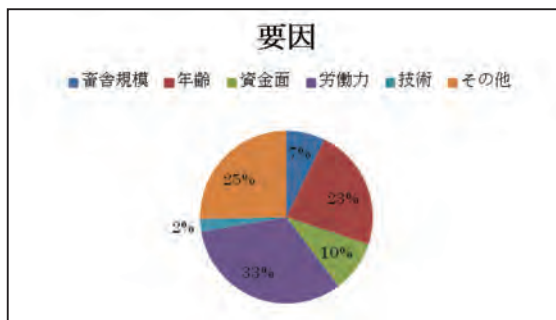
## ○ 飼養者の高齢化

60歳以上の高齢者が77%を占めています。



\*畜産継続意向調査 (H26.8実施)

## ○ 規模拡大ができない理由



\*畜産継続意向調査 (H26.8実施) 複数回答あり

繁殖用素牛価格の高騰や資金不足及び新規就農者の研修の場が無い為、就農者や後継者が自立するために資金面のバックアップや技術面のサポートが一層急務です。

## 《課題を解決するための対応》

国の畜産クラスター事業に取組み、佐渡の和牛繁殖生産基盤の強化を図る。

平成27年度に関係機関・団体による畜産クラスター協議会「世界農業遺産の島“佐渡”畜産推進協議会」設立し、先進地の長崎県JA壱岐市で、畜産施設設立までの経過、CBSの整備による畜産振興(農家の増頭支援サポート)を視察、課題の検証等を実施しました。



JA壱岐市における研修

## ○ クラスター事業の狙いと期待される効果

- ① 年間400頭上場による和牛繁殖基盤の強化
- ② 畜産農家の規模拡大支援
- ③ 施設活用による労働力軽減
- ④ 農家飼育牛の不妊治療(リハビリ)
- ⑤ 後継者や新規参入者の研修の受入
- ⑥ 耕畜連携強化による地域農業

## ○ 施設整備の内容

- ① 用地  
新穂潟上「肉用牛中核育成センター」隣接地
- ② 施設規模  
繁殖牛舎(250頭規模)、子牛育成牛舎(160頭規模)、分娩牛舎(30頭)、哺育牛舎、他に飼料関連施設、堆肥舎、管理棟
- ③ 事業費 6億5千万円(土地造成費は除く)
- ④ 着手から完了までの期間と行程
  - ・平成28年~29年度の2カ年事業
  - ・平成30年3月に全ての施設が完成
  - ・素牛導入は平成28年度に30頭実施し、平成31年度に250頭規模とする。

## ○ 施設の運営方法「JA佐渡」直営

## 《佐渡牛の将来像》

佐渡和牛のブランド確立に向け、増体系、繁殖性(連産、哺育、飼いやささ)を堅持し年間400頭の子牛を市場に出荷することに取り組みます。

さらに耕種農家との連携により、佐渡一帯での農業振興と和牛の島を目指します。

「秋、和牛の頂点へ。いざ宮城で決戦!!・・・」

## 第11回全国和牛能力共進会宮城大会に向けた本県関係者の挑戦

全農新潟県本部畜産部 参与 加藤 博幸

### ○ 宮城全共の概要

5年に一度の「牛のオリンピック、宮城全共」が宮城県仙台市で平成29年9月7日（木）から11日（月）にかけて開催されます。

種雄牛や繁殖牛らの「種牛の部」の会場は仙台港近くの「夢メッセ宮城」、「肉牛の部」の会場は「仙台市中央卸売市場食肉市場」で、全国から種牛305頭、肉牛175頭の合計480頭の県代表牛が一堂に会し、頂点を目指して最終比較審査に臨みます。

### ○ 開催の狙い

「能力共進会」の名称のもと、和牛の能力と斉一性の向上を目的にしつつ、各時代における和牛生産と改良上の重要課題を反映した出品区を設定し、日常の登録事業を通じた「改良成果の検証」と「次世代を託せる素材の選抜と展示」により、「今後の和牛改良の方向性を明示」します。今回のテーマは「高めよう生産力 伝えよう和牛力 明日へつなぐ和牛生産」で繁殖能力の改良による効率的な生産と質・量兼備の地域における特色ある和牛づくりを進めるスタートにもなります。



### ○ 本県の取組み

全共の開催の狙いは、前述ではありません。大事なものは、全共への出品に向けて、生産者、JA、行政、関係団体が何に取組み、事業や業務、組織や地域の活性化にどう活かして行けるかです。まずは、その点を和牛改良組合、JA、関係畜産担当者に周知、理解を願ったところです。幸いにも、県内に4つある和牛改良組合、関係JAからは管内巡回による繁殖雌牛群の現状確認や農家間交流など、宮城全共に向けての組織活動が活発になったことが喜ばしいことです。特に、新潟から多数参加した岐阜高山での中部ブロック和牛改良組合研修会では、先進県の取組みに大きな刺激を受け、これが今後の励みになるものと期待しています。

### ○ 「種牛の部」の選定

本県は、種牛の部・第2区（若雌の1、生後14～17カ月未満）に1頭、第3区（若雌の2、生後17～20カ月未満）に1頭を出品します。これらは、平成27年の3月から10月にかけての授精となるので、1周期前の分娩、種付け予定繁殖雌牛の拾い出しからスタートしました。よって、実際の全共の始まりは全共4年前の平成25年12月、当該繁殖雌牛の確認巡回は平成26年の4月からでした。

現在、出品資格や対象子牛の特損徴を定期的に確認し、第3区では20頭ほどの出品候補対象子牛を得られまでになっています。なお、第2区は、2月までには一定の目途がつく予定です。

### ○ 「肉牛の部」の選定

本県は、「肉牛の部」のうち第9区（去勢肥育）に2頭を出品します。この区は、24ヶ月齢未満での出荷となるため、全共の意義に理解をいただいた繁殖農家と肥育農家の連携の下、「美津百合」と「美国桜」の産子11頭を3ヶ月齢ほどで県内4肥育農家へ移動しました。現在、順調に肥育が進んでおり、概ね500kgとなっています。



巡回指導の様子

### ○ 今後のスケジュール

「種牛の部」の第2区、第3区は、2月までに出品候補対象子牛の絞込みを行う予定としていますが、一部は発育、体型的に、あるいは既に販売ということもあり、一定頭数の確保がむずかしい地域もあります。自家保留、地域保留を願いながら、7月に代表牛を決定し、骨格の大きい質量兼備の「にいがた和牛」を宮城に向けて、送り出したいと考えております。生産者の方はじめ、関係各位の一層のご協力をお願い致します。

なお、今回も視察応援のツアーを計画していますので、合わせて宜しく願い申し上げます。

# 和牛の事故防止

～冬場の疾病対策～

下越家畜保健衛生所 主任  
小野里 洋行

冬場は下痢や咳をする牛を見つける機会が多い時期だと思います。下痢や呼吸器病にかかっている間は採食量も落ち、その後の増体にも少なからず影響します。原因はさまざまで、感染症や餌などが原因の場合もありますが、多くはストレスが関係しています。

## 輸送ストレス

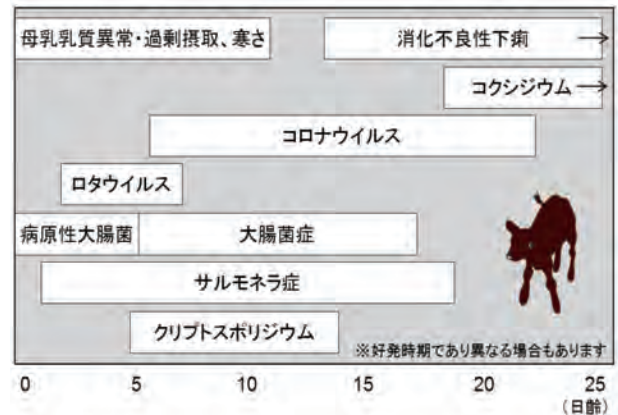
牛は移動によりビタミンAを激しく消費し、免疫力の低下にもつながります。対策として導入時にビタミンAを補給している生産者は多いと思いますが、暑い時期のほうがより大きなストレスがかかると考え、夏場の導入のみビタミンAを補給しているケースも見られます。もちろん暑さもビタミンAが低下する要因となりますが、実は子牛にとっては寒い時期にトラックの荷台で揺られることも大きなストレスになっています。そのため、冬場もしっかりとビタミンAを補給し、子牛を輸送する場合は保温ジャケットなどで寒さ対策をすることが重要です。また、市場で移動前にビタミンAを補給しても、農場に到着した際にはすでに低下している場合もありますので、必要に応じて再度補給してあげてください。

## 移動後の群編成

牛は新たな環境の中で順位付け行動や闘争により大きなストレスが加わることが知られています。複数の子牛を導入する場合、一緒に導入した子牛同士で群を構成し管理を行う方が多いと思いますが、このような管理では輸送により弱った牛の回復を遅らせ、さらに免疫力を低下させることにつながります。それを防ぐためには、導入後しばらくの間は個別管理することが望ましいです。子牛同士の間をコンパネ等で仕切ると、感染症を防ぐ上でも効果的です。もちろん、敷料を厚くする、隙間風をなくすといった寒さ対策も重要になります。個別管理が難しい場合は、群を構成する牛の月齢や血統をなるべく揃え、極端な上下関係ができないよう注意しましょう。

## 子牛の下痢

繁殖農家で子牛をしっかり育てるためには、下痢をさせないこともポイントの1つです。冬場は下痢の原因となるウイルスにとって居心地が良い環境となり、また、寒さにより牛の免疫力も低下するため発生が増えます。



主な子牛下痢症の原因と発症時期

ウイルスや細菌などの病原体が原因となる感染症対策の基本は清掃・消毒です。分娩房など牛舎内はもちろん、靴底消毒や車両消毒を徹底し、病気の侵入を防ぎましょう。原因によってはワクチンで予防できる場合もありますので、かかりつけの獣医師や家畜保健衛生所に相談してください。また、下痢や呼吸器病などは病原体だけでなく、牛の状態、そして寒さなどのストレスも関係して発症します。子牛・母牛の栄養状態の確認や飼養環境の改善など、それぞれの要因について適切に対処することで病気の発症を予防することができます。もし症状が見られた場合はすぐに獣医師に相談するなど、早めに対応してください。そのためには毎日観察を行い、しっかりと記録をつけることが重要になります。

下痢や呼吸器病を発症させないため、牛にとってストレスの少ない飼養管理をしましょう。



病気の発症要因



肉用牛経営

上越市頸城区  
萬羽 沙織



肉用牛経営

長岡市東川口  
阿部 吉克



## 『一貫経営を目指して』

私は、肉用牛肥育経営の長女として生まれ、小さい頃から牛と触れ合ったり、手伝いをしたりしながら育ちました。

仕事柄、旅行などには行けませんでしたでしたが肉牛の出荷で家族と大型トラックに乗り県外に遠出出来るのが楽しみでした。

両親の働く姿を見ている中で、両親に楽をさせてあげたい、仕事に貢献したいと思うようになった私は地元の農業高校に通いながら多くの経験を積みました。特に北海道での研修や家畜審査競技大会で全国大会に行ったことで後継者としての気持ちが強くなりました。

2年ほど前からの子牛の価格高騰で思うように子牛が買えなくなり、牛舎に空きが出来るようになりました。そこで私は繁殖に力を入れて一貫経営を目指し、肥育経営が安定するように自家生産牛を増頭したらどうかと考えました。元々、数頭の繁殖牛は居ましたが、父が農家から引き取った妊娠牛が多く、子牛からの育成→発情→種付けという流れは分かりませんでした。そのような中で、何頭もの牛の出産に立ち会い、子牛が無事に産まれた喜びと逆子で死産してしまった悲しみも経験しました。命の尊さを改めて実感し、事故なく元気な子を産ませてあげられるよう、自身の知識と技術を向上させていかなければならないと思いました。今は、肥育部門を父が、繁殖部門を私が主に担当しています。

また、2年前に、地域の若手酪農家や和牛肥育・繁殖農家、酪農ヘルパーなどから成る「上越畜産担い手グループ」が発足しました。私もそのサブリーダーとして参加しています。活動内容は、防疫研修やメンバーの畜舎見学、経営課題について話し合う座談会などで、仲間同士で地域の畜産を盛り上げながら勉強しています。

就農して9年、父にはまだまだ遠く及びませんが、『一年一産！より健康的な和牛肉の生産供給！』を目標に取り組み、農家の先輩方からアドバイスを頂きながら経験を積んで、安定した経営をしていけるようになりたいと思います。

## 『震災からの復興、そして今』

平成27年12月24日、中越地震で避難していた南魚沼牛舎から全ての牛達を川口牛舎に帰還させる事が出来ました。

震災で牛舎が被災、牛達は無事でしたが川口から全頭避難する事になりました。それと同時に私も勤めていた職場を退職し就農、牛飼いの人生がスタートしました。

毎日、朝食と昼食のお弁当を持って片道30分の牛舎への通勤、大雪の時は交通渋滞、お産があれば自宅には帰らず牛舎で寝泊まりする事も……。牛の管理でも、農業系の学校に通っていなかったのが1からのスタート。人工授精師や様々な資格の取得、研修や視察をしながら学びましたが、全く牛の知識が無かった為理解できるまで苦勞しました。帰還して思い出すと大変でしたが、この苦勞があったから今の自分があるのかなあと感じます。

牛達を川口に移動する前日、南魚沼で往診してくれた獣医さんが最後の診療の後、「良く頑張ったな、お前なら大丈夫！！」と背中を押してくれてこの11年間で成長出来たと思う気持ちと、寂しい気持ちでいっぱいになったことを今でも思い出してしまいます。

現在、私は父と繁殖牛約80頭を管理しています。川口に帰ってきたことで、今まで圃場作業は父が管理していましたが、私も慣れないトラクターに乗り父と二人で圃場作業をしながら勉強しています。

そして妻も仕事の休日に、私のサポートをしながら子牛の管理を手伝ってもらっています。少しずつ我が家の経営も新しいステージへ動き始めました。不安な気持ちもありますが、日々、健康で良質な和牛子牛を生産することを第一に歩んでいきたいと思っています。

最後になりますが、川口へ帰ってくるまでに多くの方々を支えていただき感謝の気持ちでいっぱいです。本当にありがとうございました。

## 畜産安心ブランド生産農場だより

上越市頸城区：荻谷畜産(株) 社員 近藤 大貴

私は今春、新潟県農業大学校を卒業し荻谷畜産に入社しました。学校では畜産経営科に入り肉牛を専攻し、飼養管理について学んできました。現在は、学校の実習では学べない苦労や生産現場ならではの楽しさを感じながら、とても充実した日々を過ごしています。

当社は県内に浦川原農場とくびき農場があり、2農場とも平成22年にクリーンビーフ生産農場として認定を受け、浦川原農場は先輩の金井さん(写真左)が主体となり、私はくびき農場でHACCP方式を取り入れた衛生管理を行っています。私が管理する農場は黒毛和牛を主体に約80頭の肥育牛を飼育しています。日々成長する牛の体調の変化を見逃さず、社長や金井先輩など様々な方からアドバイスを頂きながら管理を行い、「にいがた和牛」の生産とともに、「くびき牛・くびき和牛」の生産販売会員として地産地消をモットーに消費者への普及及び消費拡大に努めています。

今肉用牛の経営は素牛価格の高騰により導入は難しく、規模拡大が厳しい現状です。そんな中、私は将来地元牧区で和牛の一貫経営を行い、昔実施されていた「くびき牛の丸焼き」を復活させ、地域の復興に繋げる夢を持っています。この夢の実現のためには広い視野を持ち様々な情報収集をする必要があります。上越地域には若手畜産担い手グループがあり、情報収集する場が多くあります。そのような機会を利用し、地域の仲間とともに新潟県の畜産を担っていく存在になれたらと考えています。



牛舎で作業に励む近藤さん(写真・右)

## 畜産クラスター事業で機械導入を行った生産集団を紹介します。

当協会は、国の「畜産クラスター事業」のうち機械導入に関する「新潟県畜産振興クラスター協議会」の事務局運営と、中央基金団体(中央畜産会)への事業申請等の県窓口団体としての役割を担っています。今年度は、23件が事業採択され補助金ベースで166,365千円を予定しています。

ここで、県内で実施第1号となった「にいがた南蒲耕畜連携協議会」の取組みを紹介します。同協議会の構成は、加茂市と三条市の5戸の稲作農家と酪農家4戸で構成され、平成28年度は稲作農家が14haにWCS用イネを栽培し、酪農家にサイレージ1100個を供給しました。来年度以降WCSの栽培面積の拡大を計画しているとのこととです。

### (同協議会における機械整備の内容)

「ホールクロップ収穫機」、「自走ラップマシン」  
総事業費14,250千円(うち補助金7,125千円)



## セミナー等のご案内

- 畜産経営セミナー  
日時：平成29年2月7日(火) 午後1時30分  
会場：新潟市西区「全農にいがた大会議室」  
内容：(1) 優秀畜産表彰  
(2) 茨城県の常陸牛生産農家による優秀事例発表
- 畜産安心ブランド認定農場認証式・交流会  
日時：平成29年2月22日(水) 午後1時30分  
会場：新潟市西区「全農にいがた大会議室」  
内容：(1) 平成28年度新規認定農場認証式  
(2) 交流会・講演会：2名の講師による安全・安心な畜産物を提供する県外の取組み事例の紹介

## 編集後記



あけましておめでとうございます。お健やかに新年をお迎えのことと存じます。さて、昨年一年間に畜産に関することでも色々なことがありましたが、一番は何と言っても11月の本県初の鳥インフルエンザの発生だと思います。発生2農場併せて55万羽の鶏を県機関・市町村及び自衛隊等の力で組織的かつ効率的に防疫措置を完了されたことに敬意を表したいと思います。当協会においても、鳥インフルエンザに関する県補助事業の「発生防止緊急対策」の実施主体として、また、協会独自の緊急対策事業を発動し、両事業セットで家きん農家の皆様にまん延防止対策の支援をさせてもらっています。春に向け、防鳥ネットの破損がないか？ 鶏舎周囲の消毒は万全か？ 出入りの車両や人の消毒は大丈夫か？ など引き続き気を引き締めて万全の態勢で臨んでもらいたいと思います。さて置いて、今年一年が畜産と畜産に関係する皆様に幸せ多い年であるよう祈念します。最後に職員一同、業務に一層精進しますので、変わらぬ御支援、御指導をお願いします。(鈴木 記)